



Data

監督：蜷川実花
原作：岡崎京子『ヘルタースケルター』（祥伝社刊）
出演：沢尻エリカ／大森南朋／寺島しのぶ／綾野剛／水原希子／新井浩文／鈴木杏／桃井かおり／窪塚洋介／原田美枝子／寺島進／哀川翔

■■ショートコメント■■

◆ 全身整形の美人モデルりりこ（沢尻エリカ）は、ママと呼ばれる女社長の多田寛子（桃井かおり）の言葉によると、「もとのまんまのもんは、骨と目ん玉と髪と耳とアソコぐらい。あとは全部作りもんさ」らしい。モデル界のトップとして映画出演も決まったりりこは今絶頂期だが、「麻布プラチナクリニック」の和智久子院長（原田美枝子）から受けた整形の効果を維持するためには、一生免疫抑制剤を服用しなければならぬらしい。そんなりりこの身体には、今ある異変が・・・。

◆ こんな状況下で素の美しさを放つ後輩モデル吉川こずえ（水原希子）の人氣が急上昇してきたから、りりこはイライラ。さらに、りりこの最愛の彼氏である南部貴男（窪塚洋介）まで、「家柄」を守るため某令嬢と結婚することを発表したから、さらにイライラ。そこでりりこは、忠実なマネージャーである羽田美智子（寺島しのぶ）とその彼氏の奥村伸一（綾野剛）にある計画を実行するよう指示したから、こりゃ既に異常・・・？

赤の色彩美を描けば当代随一の蜷川実花監督が、有名コミックのヒロインりりこ役に実生活も酷似している（？）沢尻エリカを据えた話題作が本作だが、その出来は？

◆ 映画冒頭では、堂々と上半身のフルヌード姿を見せる沢尻エリカの度胸に驚かされる。さらに頂点に立つ人気モデルとして威張りちらすりりこ、全身整形の引き替えに迫りくる恐怖に怯えイライラし、次第に狂気の域に達していくりりこを沢尻エリカが熟演している。しかし男の私には、所詮対岸の火事でどうでもいいことと思ってしまう、全然りりこの氣

持の中に入っていくことができない。さらに監督の演出として、美しいモデル姿を次々と見せられ、表紙を飾る雑誌を次々と見せられ、それにキャーキャーと騒ぐ女子高生たちの生態を見せられ続けると、いい加減うんざり。

◆ 本作のストーリーは、大森南朋演ずる麻田誠検事が検察事務官の保須田久美（鈴木杏）に語りかける何ともキザなセリフが軸となる。麻田検事は「麻布ブラチナクリニック」で死者を含む多くの被害者が出ていることを告発すべく捜査しているらしいが、弁護士の私から見るとこの描き方はいかにも陳腐。この検事はカッコばかりつけて一体ナニをやっているの？そう思っていると案の定、麻田検事は「大阪地検特捜部主任検事証拠改ざん事件」に見る大阪地検特捜部の前田恒彦検事のような大チョンボ（？）に至るのだが、そのマンガチックな展開は見るにたえない。いくらコミックが原作とはいえ、もう少し現実的な描き方はできないの？

◆ 整形の後遺症で今やりりこの身体はアザだらけになってしまったうえ、過去の履歴がマスコミにバレてしまったから大変。今日は発言内容について用意周到な準備をし、全身くまなく化粧を施したうえで記者会見に臨む日だが、そこでりこはいかなるパフォーマンスを？本作のラストはアツと驚く意外なものだが、そこに至るまでの展開がイマイチ。りここの記者会見場におけるパフォーマンスで本作は一瞬ジ・エンドと思わされるのだが、その後に見せる展開は？

映画冒頭美しい沢尻エリカのヌードを拝めるのは嬉しいが、ラスト近くに見る彼女の姿とは？それはあなた自身の目でしっかりと。しかして、本作へのあなたの採点は？

2012（平成24）年6月9日記